

Michishita Kouminkan 60th Anniversary

道下公民館の還暦を祝おう!!

魚津市の「道下の歴史を語る会」(本元義明会長)は、道下地区を中心に市内の歴史をまとめた冊子作りを進めている。活動拠点の道下公民館(同市北鬼江、

大崎勇館長)が創立60周年を迎えたことに合わせて企画した。メンバーは「読んで人が地区に愛着を抱くものにしたい」と話す。

魚津・道下の歴史を語る会 公民館60周年で冊子

原稿の読み合わせなど冊子作りを進める「道下の歴史を語る会」のメンバー



冊子は、11月23日に魚津市のありそドームで開かれる同公民館の60周年記念式典で地元住民らに配る。

完成は8月ごろを予定している。メンバーは「住民にとってなじみ深い行事からあまり知られていない史実まで幅広く道下の歴史を伝えたい」と意気込んでいる。

内容は、道下地区の各町内の成り立ちや、北鬼江神社はじめ地元の神社で開かれる祭り、青年団の活動など多岐にわたる。市内を流れる片貝川の流域の変化に伴い、道下地区がどのように形成されてきたかについても触れる。

道下の歴史を語る会は2008年に発足。メンバー6人は月1回、道下公民館に集まって、それぞれ興味を持って調べたテーマについて発表してきた。公民館が完成してちょうど60年となり「地区の歩みを振り返るものを作ろう」と、記念誌の製作に取り掛かった。月2回ほど、同公民館で原稿を書いたり読み合わせをしたりして準備を進めてきた。

内容は、道下地区の各町内の成り立ちや、北鬼江神社はじめ地元の神社で開かれる祭り、青年団の活動など多岐にわたる。市内を流れる片貝川の流域の変化に伴い、道下地区がどのように形成されてきたかについても触れる。

冊子は、11月23日に魚津市のありそドームで開かれる同公民館の60周年記念式典で地元住民らに配る。

地区の歩み伝えたい

道下公民館だより

No. 89 号

発行者 大崎 勇
編集者 編集委員会
TEL 0765-22-2285
ホームページアドレス
<http://www.nice-tv.jp/~michi-k/>

平成24年5月5日 北日本新聞 朝刊より

創立60周年を祝う

市制60周年に合わせるように、当公民館も今年度創立60周年を迎えました。甲子のよう^{きねね}に十干十二支で表される昔の暦による年表示は、60年で元に戻ります。これを暦が還るということで「還暦」といいます。人間の場合は、赤いちゃんちゃんこを着てお祝いをし、定年を迎えて人生の再出発を図る年でもあります。

当公民館も、地区の皆さんや行政などの支援をうけて、めでたく還暦を迎えました。そこで、今年度はあるゆる活動に対して長い継続の努力に敬意を表し、お祝いをしたいと存じます。さらに、設立の原点に立ち返り、現状を見つめ直し、将来の展望を確かなものにして再出発を図りたいと念じております。11月23日には、60周年の記念式典を行い、それまでに記念誌等も発行したいと思っております。

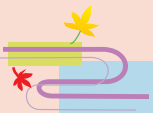
地区のみなさんのご支援ご協力を何とぞよろしくお願いいたします。

創立60周年記念

道下ふれあい文化祭

11月17日(土)18日(日)

会場 道下公民館
北鬼江会館
(18日演芸)



創立60周年記念

第7回 ふるさと探訪ウオーク

洞杉・蛇石
東山円筒分水(片貝方面)



6月12日(火)

集合 午前 9:00
道下公民館
出発 午前 9:20

※申込みは道下公民館まで TEL・FAX 22-2285

創立60周年記念

道下地区 敬老会

6月3日(日)

受付 午前 9:15~
開演 午前 9:45~

会場 道下小学校体育館

地区名	配布物数	区 長	体育推進委員	文化祭推進委員	防 犯 組 合	交通センター委員	環境保健衛生推進員	福祉推進委員
★新役員のみなさま★ ★よろしくおねがひします！★	23区 1702	(会 長) 川 戸 真 二 (副会長) 朝 野 雅 仁 (会 計) 高 橋 裕 幸 (監 事) 田 村 正 人	体育振興会役員 (会 長) 松 本 明 夫 (副会長) 寺 田 行 男 山 口 城 美和子 (事務局) 寺 田 淑 人 小 黒 健 太郎 狐 塚 智 美	敬老会 6/3(日) 街 流 し 8/5(日) 体 育 祭 10/7(日) 文 化 祭 11/17(土)18(日)	(組合長) 木 内 清 光 (副組合長) 原 武 雄 (書 記) 虎 谷 廂 (会 計) 古 川 至 (監 事) 山 田 修 一	(支部長) 吉 崎 実 (副支部長) 大 原 一 雄 室 口 日出輝三 守 谷 健 弘 青 山 雅 芳 枝 (高齢者部会長) 山 本 明 正 (母の会) 吉 田 千恵子	(会 長) 松 岡 算 (副会長) 浅 生 修 (会 計) 窪 田 幸 二 (監 事) 細 田 貞 男	
岡 仏 田	123	新 浜 讓 治	谷 山 清 志 本 越 泰 裕	石 原 明 子 谷 越 則 子	岡 本 千 秋	木 下 清	岡 田 龍之助	谷 越 光 子 水 野 秀 雄 山 本 た き
岡仏田 2	91	松 儀 正 博	小 川 義 春 小 林 弘 幸	松 儀 正 博	田 中 由 美	長 津 朋 子	関 根 貴 秋	田 辺 茂
仏 田	158	武 岡 慎之介	笠 矢 正 雄 池 崎 哲 朗	青 山 正 二	岡 田 重 信	原 信 幸	高 林 義 正	本 田 妙 子 河 崎 洋 子
仏 又	23	田 村 正 人	田 村 正 人	田 村 正 人	田 村 正 人	田 村 正 人	田 村 正 人	田 村 正 人
青 島 1	149	扇 谷 晶 洋	賀 田 哲 也 中 嶋 千 秋	扇 谷 晶 洋	扇 谷 晶 洋	浦 城 正 治 辻 美恵子	松 岡 算 春 辻 義 春	辻 野 坂 光 幸 星 山 三 慎 吉 一 道 子 瀬 本 順 子 谷 正 人 島 崎 義 弘
青 島 2	74	荒 俣 正 明	谷 島 保 也 笠 木 達 也	荒 俣 正 明	大 坪 裕 也	中 川 孝	木 下 陽 子	山 油 瀬 道 本 正 子 樗 谷 義 弘 大 寺 崎
青 島 3	144	本 川 隆 二	池 田 久 範 米 高 瀬 耕 次	本 川 隆 二 魚 住 勉	下 村 秀 之 森 修	岡 田 秀 人 島 崎 竹 志	魚 住 勉 子 樗 川 恵 子	高 橋 裕 幸
青島社宅	6	高 橋 裕 幸	葉勢森 敏	高 橋 裕 幸	東 英 雄	美 輪 暢 彦	田 中 亮	高 橋 裕 幸
青島新町	32	和 田 正 幸	沼 尾 智 志 宮 崎 人	和 田 正 幸	和 田 正 幸	和 田 正 幸	浅 生 修	米 田 直 樹
友 栄	38	水 本 美喜雄	川 尻 明 江 濱 住 尚 子		渡 部 政 弘	野 崎 好 美	川 端 和 明	楽 山 祥 子
北 中	39	纒 坂 謙 司	寺 田 晶 三 古 金 津 夫 増 田 弘 樹	三 井 健 一	高 山 正 之	江 幡 博 和	寺 田 正	寺 田 正
北 中 新	19	窪 田 伸 二	長谷川 守 嗣 石 原 義 嗣	窪 田 伸 二	中 村 由 則 三井田 信 吉	滝 川 之 夫 眼 龍 捷 男	長谷川 竜 一	窪 田 伸 二
下 道	45	丸 本 弘 和	前 本 良 樹 林 森 正 通	竹 内 ケイ子	経 沢 祐 二	寺 西 良 一	窪 田 幸 二	保 里 昭 男
荒 磯	33	田 中 悦 久	河 合 雄 三	河 合 雄 三	河 合 雄 三	大 貫 勉	大 貫 勉	追 栄 幸 平
高 畠	41	朝 野 雅 仁	河 本 清 司 山 岸 正 智 本 本 恵 子	藤 本 芳 枝	三 浦 栄 蔵	大 崎 健 一	池原谷 道 夫	慶 伊 多紀子
北鬼江 1	110	高 瀬 進	谷 島 達 也	橋 爪 栄	佐 藤 祥 大 崎 哲 也	高 瀬 進	高 瀬 進	滝 本 美 樹 高 瀬 和 子
北鬼江 2	118	細 田 貞 男	大 崎 悠 矢	川 上 勉 細 田 貞 男		細 田 貞 男	細 田 貞 男	川 上 悦 子 大 崎 康 一 崎 原 雄 弘
北鬼江 3	151	川 戸 真 二	川 岸 大 介	片 山 伸 二		片 山 伸 二	川 戸 真 二	元 野 千住 大 嶋 寛 子 嶋 崎 厚 子
釈迦堂	62	大 島 正 彦	森 内 将 史 森 内 彰 弘		森 内 謙 一	森 内 光 雄	大 島 正 彦	田 村 今 寺 崎 日 寺 崎 子 崎 厚 子
本 新	162	加 藤 敏 明	古 川 謙 二 眞 生 田 慎 治 野 家 明 夫 藤 森 敏 治	石 川 昭	古 川 至	守 健 三	虎 谷 紀美子	眞 砂 幸 子
磯 路	36	眞 砂 勇		森 敏 明	竹 山 信 一 中 野 祐 洋	細 川 芳 朗 竹 山 信 一	平 野 美津子	眞 砂 幸 子
小川田住宅	8	水 口 勇					金 和 恵 子	水 口 勇
道下住宅	40	風 間 真 樹	馬場先 弘 美		小 泉 益 江	数 井 巴 子	大 島 いづみ	

● 道下婦人会

会 長	青 山 芳 枝
副 会 長	山 城 美和子 蔵 谷 初 乃 小 森 幸 子
書 記	浜 田 博 子 寺 田 光 子
会 計	吉 田 千恵子 経 田 喜 子
監 査	谷 島 紀 子 川 岸 律 子
女 性 セミナー	岡 崎 香 竹 三枝子 長谷川 真理子 金三津 千恵子 山 城 美和子 吉 田 千恵子 河 崎 洋 子

道下婦人会では、年間を通して会員を募集しています。
どなたでも誘い合って参加してください。

連絡先 090-6275-5364
(青山)

● 道下老人クラブ連合会

会 長	山 本 明 正
副 会 長	金 物 正 男 古 川 清 作
会 計	浦 田 富 治
高 級 者 長 高 級 者 主 事	山 本 明 正 大 崎 正 男
会 計 監 査	森 内 貞 男
女 性 部 員 委 員	加 藤 民 子 小 路 則 子

● 地 区 役 員

青 島 千 歳 会	金 物 正 男 山 本 博 久 小 路 典 子
北 鬼 江 福 寿 会	山 本 明 正 古 川 博 隆 酒 井 宏 子
釈 迦 堂 千 歳 会	森 内 貞 男 森 内 光 雄 横 田 葉 子
本 新 千 歳 会	古 川 清 作 寺 崎 義 弘 加 藤 信 子
青 島 3 区 青 悠 会	浦 田 富 治 扇 谷 和 暢

● 道下地区民生委員
児童委員協議会

委 員	担 当
山 田 夏 子 (会 長)	北 鬼 江 2 区
田 中 源 三	岡 仏 田 区 岡 仏 田 2 区
室 口 日 出 輝	仏 田 区 磯 路 区 仏 又 区 小 川 田 住 宅 区 下 道 区
金 和 恵 子	青 島 1 区 青 島 2 区 青 島 新 町 区 青 島 社 宅 区 青 島 3 区
米 山 隆 司	北 中 区 友 栄 住 宅 区 北 中 新 区 荒 磯 区 高 畠 区 北 鬼 江 1 区
吉 田 尋 子	北 鬼 江 3 区 道 下 住 宅 区
浦 親 利	釈 迦 堂 区 本 新 区
大 崎 政 春	主 任 員 兒 童 委 員
大 崎 寛	
木 下 純 一	
大 島 英 則	
加 藤 昇	
本 田 恵 子	
本 辻 淳 子	

● 道下地区
社会福祉協議会

会 長	慶 伊 敏 雄
副 会 長	山 田 夏 子 葉 勢 森 正 之
事 務 局	大 崎 政 春
会 計	田 中 源 三
理 事	室 口 日 出 輝 井 田 博 隆 金 坂 真 智 子 橋 爪 晴 子 川 戸 真 二 仁 朝 野 本 明 正 山 古 川 清 正 金 物 江 正 梅 芳 大 青 松 岡 内 清 木 吉 崎 光 実 大 崎 正 雄 石 川 登 美 子 山 本 田 千 恵 子 吉 浦 大 崎 英 則 大 加 金 和 恵 純 金 木 吉 米 本 辻 小 米 路 山 明 彦
監 事	木 下 英 暖 松 本 誠
参 与	大 崎 清 河 明 彦



指導員
本田恵子



書記代替
牧野暁美

★ 道下公民館職員
今年度から新たに2名加わりました。
ようしくお願ひします。

新 主 館 長 大 崎 勇
新 指 導 員 木 下 英 暖
新 書 記 代 替 記 米 本 恵 子
新 書 記 代 替 記 牧 野 暁 美

★ 道下公民館職員

会 長 本 元 義 明 有 識 者
委 員 新 清 河 明 彦 道 下 小 学 校 長
吉 崎 実 道 下 振 興 協 会 理 事 長
慶 伊 敏 雄 道 下 地 区 区 長 会 長
新 川 戸 真 二 道 下 地 区 区 長 会 長
松 本 明 夫 道 下 地 区 区 長 会 長
新 青 山 芳 枝 道 下 地 区 区 長 会 長
橋 本 浩 八 郎 道 下 婦 人 会 会 長
小 森 幸 子 有 識 者 (監 事)
松 本 誠 有 識 者 (監 事)
道 下 小 学 校 育 成 会 会 長

★ 道下公民館
運営審議委員 (順不同)

● 振興協議会役員

会 長	大 崎 勇 二 雄	監 事	青 山 芳 枝 田 村 正 人	評 議 員	高 橋 裕 幸 和 田 正 幸 水 本 美 喜 纓 坂 謙 司 窪 田 伸 二 丸 本 弘 和 田 中 野 久 仁 朝 瀬 田 進 高 瀬 田 男 細 田 彦 大 島 明 加 藤 敏 眞 水 砂 口 風 間 真 樹
副 会 長	川 戸 伊 敏	事 務 局 長	木 下 英 暖		
理 事	慶 伊 清 光 木 内 明 正 山 本 実 彦 吉 崎 明 彦 清 河 夏 子 山 岡 算 夫 松 本 誠 彦 松 本 康 彦 加 藤 明 幹 米 高 瀬 士	事 務 局 補 員	谷 崎 孝 洋 寺 崎 淑 美 中 瀬 田 宏 久 保 村 國 雄 高 東 城 豊 二 東 新 浜 謙 治 松 儀 正 博 武 岡 慎 之 扇 谷 晶 介 本 川 隆 二		
		顧 問			
		評 議 員			

● 魚津市消防団道下分団

分 団 長	加 藤 康 彦
副 分 団 長	川 岸 久 栄
部 長	加 藤 正 隆 本 元 久 昭 西 尾 勉 茂 山 本 茂
班 長	虎 谷 幸 博 寺 崎 文 金 森 勲 澤 崎 豊 山 田 利 久 保 隆 浅 生 範 長 谷 川 貴 誠

道下公民館 平成23年度決算・平成24年度予算

収入の部

(単位：円)

	項 目	23年度決算	24年度予算
委国 託県 金	放課後子ども教室 (道下子ども教室)	500,000	452,000
	小 計	500,000	452,000
市 交 付 金	地域異世代交流事業	220,000	215,000
	公 民 館 教 室	170,000	170,000
	高 齢 者 学 級	80,000	80,000
	共 催 事 業 費	582,000	577,000
	書記・指導員活動費	20,000	20,000
	小 計	1,072,000	1,062,000
	住 民 負 担 金	1,520,780	1,521,000
自 主 財 源	道下振興協会助成金	400,000	350,000
	広 告 料	491,000	500,000
	雑 収 入	230,275	230,052
	繰 越 金	335,544	167,748
	小 計	2,977,581	2,768,800
	合 計	4,549,581	4,282,800

創立60周年記念事業積立金

平成20年度 積立金	100,000
改築20周年事業積立残金	95,861
平成21年度 積立金	100,000
平成22年度 積立金	100,000
平成23年度 積立金	100,000
平成24年度 積立金	100,000
計	595,861

支出の部

(単位：円)

	項 目	23年度決算	24年度予算
事 業 費	放課後子ども教室	500,000	452,000
	地域異世代交流事業	220,000	215,000
	ふ れ あ い 活 動	20,000	20,000
	女 性 セ ミ ナ ー	150,000	150,000
	高 齢 者 学 級	80,000	80,000
	団 体 助 成 金	280,000	280,000
	敬 老 会 費	419,738	420,000
	体 育 祭 費	637,674	640,000
	文 化 祭 費	439,696	500,000
	芸能・スポーツ活動費	119,339	120,000
	広 報 活 動 費	251,920	320,000
	研 修 活 動 費	65,520	100,000
	小 計	3,183,887	3,297,000
運 営 費	会 議 費	35,618	36,000
	事 務 費	37,687	38,000
	通 信 費	20,130	25,000
	備 品 費	345,750	110,000
	修 繕 費	28,860	35,000
	光 熱 費	45,792	50,000
	消 耗 品 費	272,436	270,000
	負 担 金	62,000	62,000
	保 険 料	129,800	129,800
	書記・指導員活動費	20,000	20,000
	雑 費	79,873	70,000
	書記指導員勤続謝金積立金	20,000	20,000
	創立60周年事業積立 予 備 費	100,000	100,000
	予 備 費	0	20,000
	小 計	1,197,946	985,800
	合 計	4,381,833	4,282,800

道下公民館 利用サークル

サークル名	と き	時 間
健康体操 (命の貯蓄体操)	月・金	10:00～
茶 道 (茶楽利の会)	月(月2)	9:30～
詩 吟	月	10:00～
フラダンス (いきいきアロハ・ フラサークル)	火	13:30～
よさこい (いぶき)	火・木	19:30～
剣 詩 舞 (渋川流智月会)	水	13:30～
	土	13:30～
絵 手 紙 (色いろ)	水	13:30～
蜷気楼節保存会	水(月2)	19:30～
社交ダンス (道下教室)	木(月2)	13:30～
道下の歴史を語る会	月 1	13:30～
中 国 語	水	19:00～
男の魚捌き方教室(ととカルチャー)	月 1	10:00～
和 裁 (友の会)	水(月2)	13:30～
着付 (友の会)	木(月2)	13:30～
道下サークル活動 (小・中学生) (お茶・将棋・三味線・創作・ スポーツ・クッキング)	土(月1)	9:30～

平成24年度
6月～12月 主な行事予定

と き	行 事 名
6 月 3 日(日)	地区敬老会
6 月12日(火)	ふるさと探訪ウォーク7 (片貝探訪 洞杉・蛇石・東山円筒分水)
6 月24日(日)	ソフトボール大会(東中グラウンド)
8 月 5 日(日)	蝶六街流し
9 月17日(日)	道下住民ゴルフ秋季大会 (国際カントリー)
9 月20日(金)	道下パークゴルフ大会(大島パーク)
10月 7 日(日)	地区体育祭
11月17日(土) ・18日(日)	道下ふれあい文化祭
11月23日(祝)	創立60周年記念式典 (ありそドーム・研修室)
11月25日(日)	ビーチボール大会(道下小学校体育館)
12月22日(土)	X'm a s ケーキづくり

たくさんの方のご参加をお待ちしています

谷 欽太郎家の概要

この三家は、共に道下村の村長を務めた。(谷順平・谷富治・高見源二)

（資料や当時の事情を提供して下さったのは欽太郎氏の長女・楠和子さん〔高岡市在住〕）

100%

家の寸法などは定かではない

が部屋数が多く、一部二階、三階となっている。蔵も七戸前あった。屋敷は、およそ二千坪と思われる。(中庭・裏庭も含む)

三、特色ある仏間

火災に強いように土蔵造りであり口も窓も扉が閉まるようになっていた。特に入り口の扉には寺院の山門にあるような仁王像が彫られ、谷家の家紋も入れていた。

天井は格天井で天女の舞う絵

火災に強いように土蔵造りであり口も窓も扉が閉まるようになっていた。特に入り口の扉には寺院の山門にあるような仁王様が彫られ、谷家の家紋も入れであった。

天井は格天井で天女の舞う絵

が画かれていた。

(十三) 十四人

- (却つて代議士の

鍛冶良作氏もその一人)

- （炊事係・掃除係）

客接待係を交代)

- ・車夫…一人（人力車）

- ・中堅の男…二人（仕事人）
- ・若い男…二人（使い走り・買い物）
- ・看護婦…二人（欽太郎・病弱のため）

五、製茶など

谷家では正門の前通りに茶畑があり、祖母の指導で製茶をして年中茶を賄っていた。

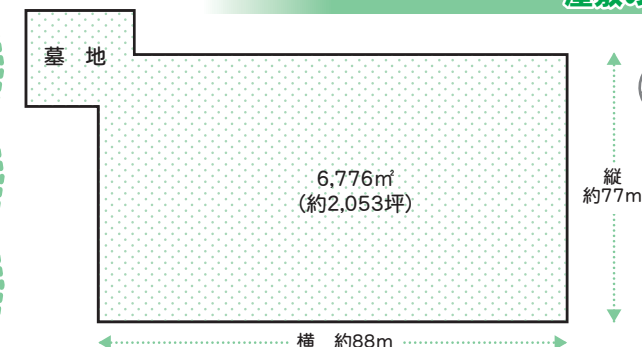
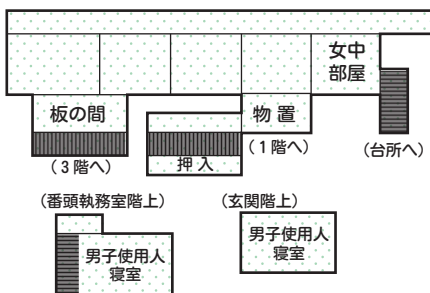
- （使い走り・買い物）

- （欽太郎・病弱のため）

板の間
押入

正雄居間

(2階へ)

[illegible]

道下公民館ホームページをぜひご覧ください!!

写真満載の道下ブログを

道下の人口 今日2倍に!!

第32回

魚津しんきろうマラソン

日時 平成24年4月29日(日) 開会式 8:20～ スタート 9:10～ 会場 ありそドーム(スタート・ゴール)

今年のマラソン参加者は過去最多の**5800**名! 沿道の応援者も多数!
人口6000人の道下地区はとっても賑やかな街になりました。
今日は穏やかな晴天。しんきろうも富山市方面に出現!
マラソン参加者の皆さん、沿道の応援の皆さん大喜び!
まさに魚津市制60周年・道下公民館創立60周年を祝う大会になりました。



世界一周達成の貴様
ゲストラナー 関 寛平さん



道下地区の交通ボランティアの皆さん朝早くから大変お疲れ様でした。
また、応援小旗作り(今年は200本)や本日の応援席設置にご尽力いただいた公民館サポーターの皆さんに感謝感謝!!

本当にありがとうございました

受賞おめでとう
ございます

消防庁長官表彰

永年勤続功労章 川岸 芳雄

県知事表彰

精勤章 西野 宗司

日本消防協会会長表彰

勤続章 高瀬 輝夫

県消防協会会長表彰

勤続緑花章 山本 久昭

保全整備優秀車両 道下分団

優良機関員章 浅生 貴

県知事表彰

地域の環境美化と美しい県土
作りに貢献。 松岡 算第三十六回
魚津市民卓球大会女子シングルラジボールの部
優勝 高橋美恵子団体戦ラジボールの部
次勝(道下)加藤 敏明 北野 京子
油本 秀次 高橋美恵子第十六回魚津市
消防団消防操法大会

次勝 道下分団

道下地区の人口
(平成24年 5月1日現在)

男 2,998人(+16)
女 3,107人(-3)
計 6,105人(+13)
世帯 2,238人(+22)

※かっこ内は前号対比

事務所 MürMür

このところの繁雑さは、
まるで草薙龍米のようです。
若葉の緑に目を休め、
山菜を食し、金環食に心
を躍らせ、癒しを求めた
4月、5月でした。

編集後記

本年度の活動は全て公民館創立六十周年の冠がつきます。それぞれの活動が実り多いものになり、新たな気持ちで次年度につないでいっていただきたいものです。

十一月二十三日の記念式典までには、道下の歴史を振り返る記念誌も完成します。道下にあった商店のこと、カーバイドのこと、魚津駅の開業の頃のこと、道下に人が住み始めた頃のこと、道下にあった古道のこと、方言のこと等々興味深いことがたくさん盛り込まれます。楽しみにしていてください。
(Y・H)

